

過去問の学習方法

1. 過去問は最高のバイブルです。専門校の答練にも良問はありますが、やはり本試験に叶うものではありません。特に事例Ⅳの経営分析は、各企業の数値を徹底的に洗い出す練習をすれば、必ず本試験での対応力を確保できます。

DVDでは話していませんが、平成 24 年度の論点と同様のものは、平成 17 年度で予想財務諸表の問題が、16 年度で企業価値の問題が出題されています。Amazon やオクシオン等を利用してできるだけ過去問を解く事をおすすめします。

事例Ⅳの本番での対処方法

1. 最初の 20 分は、とにかく我慢。どこに配点があるか？そのうち自分は、どこで点を取るか（できるだけ単独問題）をしっかりと設計する。
2. 「いける」と思って途中まで実施した問題であっても、途中で無理と感じたら「すっぱり、あきらめる事」も大事
3. 記述問題は、とにかく「解答要求」と「与件」を照らし合わせれば、「何か」書く事は可能。過去の受験者から「あの答案でAとがビックリ」という声はよく聞きます。決してあきらめず、最後の 1 分まで力を振り絞ってください

経営分析問題への対応

どのような学習が効果的か？

平成 25,24 年はそれまでとは違った角度の問題でした。専門校（当社も含めて）の型にはまった学習の方法では対応が難しくなっています。テクニックも大事ですが、自力をつける必要があります。

その為には、とりあえず「とにかく数値を出してみる事」です。基本的には、与件情報から関係ないと思っても、とりあえず一式計算される事をおすすめします。その上で「与件の情報」をあわせて分析し、D社の問題点・課題・改善点などをまとめる練習をすると力がつきます。

下記の指標を過去問 5~10 年分くらい出せば力はつきます。

収益性	総資本経常利益率 （総合的な収益性を判定） 売上高総利益率 売上高営業利益率 売上高経常利益率	
-----	---	--

効率性	総資本回転率 棚卸資産回転率 有形固定資産回転率 売上債権回転率	
-----	---	--

※回転：飲食業などでは、椅子席が 10 で昼食時 30 人くれば 3 回転という
 回転＝売上と考えよう

短期安 全性	流動比率 当座比率	少なくとも 100%以上 100%以上が望ましい
-----------	--------------	-----------------------------

長期安 全性	固定比率 固定長期適合率 自己資本比率 負債比率	一般的には 100%以内が良好 100%以内である事が必要
-----------	-----------------------------------	----------------------------------

分子・分母は P / L ・ B / S の左右で覚えると楽。分母はとにかく左！

費用	収益
利益	

資産	負債
	純資産

では今回の問題をD社と競合他者を比較してみましょう

	指標名	D社	同業他社
収益性	総資本経常利益率 (総合的な収益性を判定)	1.15%	2.84%
	売上高総利益率	19.51%	20.47%
	売上高営業利益率	2.04%	1.76%
	売上高経常利益率	0.61%	1.24%
効率性	総資本回転率	1.88回	2.29回
	棚卸資産回転率	6.66回	10.63回
	有形固定資産回転率	6.79回	6.22回
	売上債権回転率	6.81回	9.68回
短期安全性	流動比率	155.44%	137.94%
	当座比率	91.54%	84.12%
長期安全性	固定比率	120.72%	150.80%
	固定長期適合率	55.60%	74.51%
	自己資本比率	25.58%	29.55%
	負債比率	290.99%	238.40%

売上債権は貸倒引当金控除前を算出している

与件や他の設問から、回収状況の不安が書かれている時は、貸倒引当金控除後が望ましい

<与件分から考えられる指標>

販売実績は概ね好調・・・売上高営業利益率がいいのに経常利益率は悪い

大手スーパーとの取引

生産能力に余剰・・・有形固定資産回転率

老朽化

工場用地取得済(未活用)・・・負債比率

製品ライン見直(現状良くはない)・・・棚卸資産回転率

【同業他社との比較もあわせると】

<売上高経常利益率・棚卸資産回転率・負債比率>あたりが候補でしょうか

平成23年の対処法（大問の配点はそのままで、設問の傾斜が極端な可能性あり）

①20分間で設計

<確実に取りたい>66点

点数は傾斜考慮後

第1問

(設問1)

a・b 名称・数値のうち2つ 6/10点

c・d 少なくとも借入・ラインに触れる 5/10点

(設問2)

a 営業CF（小計まで） 8/10

b 難しい 0/5

第2問

12/15点

第3問

20/25

第4問

(設問1) 15/15

(設問2) 0/10

<取れたら嬉しい>

第1問 設問1の残り1つの指標 4/10

営業CFの完答 2/10

問題点と改善点、営業CFからの課題

第4問

(設問2) 10/10

今回は本当の意味で没問というのではないと思います。

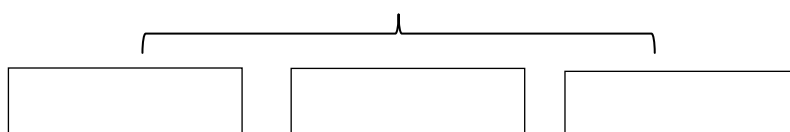
ただ、第一問の記述が何となく書けそうでいながら、案外難しいと思います。

逆に第2,3,4問（設問1）が比較的簡単なので、確実に加点したいところです。

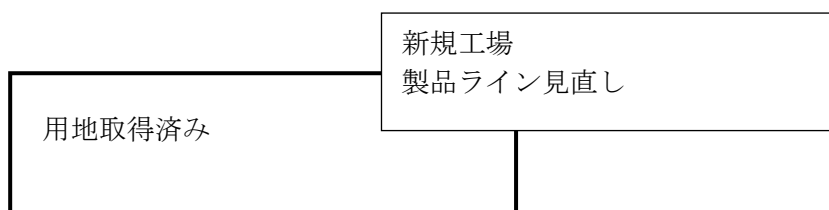
(解説)

総資産 13 億		売上 24 億 5 千万
	資本金 1,300 万	従業員 35 名 (正社員のみ)

水産物加工 (地元スーパー・外食) で概ね好調
大手スーパー 売上の 15%



遊休・老朽化



新規事業進出

<解説>

では、確実に取りたい論点から説明します

第1問

P2にあるように<売上高経常利益率・棚卸資産回転率・負債比率>
あたりが候補でしょう。

原因：売上高経常利益率、負債比率

土地取得などへの負債依存度が高いので、支払利息が多い

棚卸資産回転率

飛び込み需要にも応じるなど、長所の反面計画性がないともいえる

製品ラインの見直しが必要という事は、今がよくないという事

改善策：今後の収益拡大に伴い、負債の早期返済を行う

計画的な販売を行う事、ならびに適正在庫化を図り資産効率をあげる

第2問

間接法によるCF計算書

税引前当期純利益	15
減価償却費	22
営業外費用	40
営業外収益	△ 5
売上債権↑	△21
棚卸資産↓	9
仕入債務↓	△13
小計	47
利息の受取	5
利息の支払い	△40
法人税の支払	△ 4
営業活動によるCF	8

経営上の課題：難しい

売上の増加・利息の軽減などによる利益拡大

得意先管理・販売管理体制構築による資産効率アップ

第2問

特別受注の意思決定の考え方

- ①遊休生産能力の確認
- ②単位当たり貢献利益（限界利益）の確認
- ③受注時の他の取引先、他の営業部門（スタッフ）との関係悪化

財務事例なので、原則は③はあまり意識する必要はないが、あくまでも「コンサル要素」を考えると、記述内容に苦勞する場合は補足する事で加点の可能性はある

遊休生産能力 2,000
貢献利益 @300円

簡単な問題

第3問

限界利益という言葉は意識しておきましょう

基本的には簿記でいうところの貢献利益と同じです。

ただ、部門別や製品別などのセグメント別のP/Lの場合は、限界利益から個別固定費を引いたものを貢献利益といいます

この問題では「固定費」という経費の捉え方を理解しているかどうかを問うています。資金管理上は固定費を個別・共通に区別する事はありません。

ただ、部門別や製品別の成果を管理したい場合には、個別固定費（例えば、ある製品事業部だけで使用している工場家賃、外注費など）という考え方を採用する必要があります。

製品Zは営業利益はマイナスですが、個別固定費を引いた段階では120の利益が出ており、少なくとも共通固定費（例えば本社事務所家賃や社長の給料等）を120カバーしている訳です。

P/Lで小計・合計を入れるとよくわかります。

	X	Y	小計	Z	合計
売上高	350	450	800	600	1,400
変動費	125	200	325	280	605
限界利益	225	250	475	320	795
個別固定費	100	150	250	200	450
貢献利益	125	100	225	120	345
共通固定費	315				
営業利益	37.5	12.5	△90	△20	30

第4問に関しては論点整理ゼミの解説を入れておきます

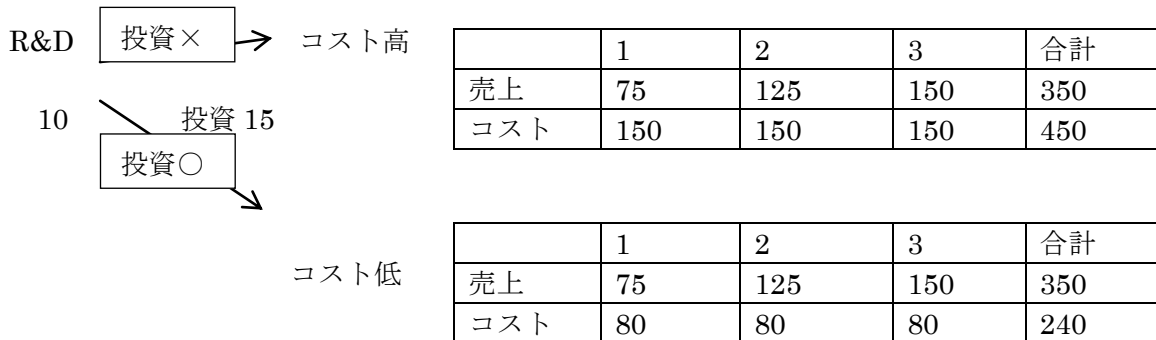
設問1は簡単な期待値計算です

	1	2	3	合計
C I F	75	125	150	350
C O F	115	115	115	345
	△40	10	35	5

投資額 15 ∴ NPV = 5 - 15 = △10

投資はしない

設問2 (論点整理ゼミの内容です)



コスト高の場合・・・△100となるので投資はしません

コスト低の場合・・・110となるので投資(△15)します→NPV95

期待値計算 $(0 \times 1/2 + 95 \times 1/2) - 10 = 37.5$

R&D実施により、正味現在価値は+になるので投資をすべきである。

「R&Dというオプション費用を払う事で、投資をするかどうかを決定できる」という意味でリアルオプションと呼ばれる事もあります

※R&D Research&Development=研究開発